



創作狂言

番組

太鼓腹

(たいこばら)

兄弟 兄の妻 弟の妻

生活習慣病が気になるメタボな兄弟は、運動はせず暴飲暴食がやめられません。二人で酒を飲んでいると「どちらの腹が大きいか」太鼓腹比べをすることにまりました。それを見ていた兄弟の妻たちは、あきれて「計を案じ、そつと二人に近づきます…。(本公演会のために創作した「健康狂言」です。)

盆山

(ぼんざん)

何某 盆山愛好家

世間では盆山(盃ほどの盆の上に石や砂などで風景をかたどった箱庭のようなもの)が大流行。男も所有はしているものの今一つ気に入った盆山がありません。ところが知り合いの主人は豪華な盆山をいくつも所有しているとの事。男は計を案じて、その知人宅の屋敷へ夜な夜な忍び込み、好みの盆山を無断で拝借することに…。男は、用意してきた『のこぎり』を使い垣根を破り盆山を物色する。するとその物音に気付いた家の主人が見てみると盗人は顔見知りの男だった。そこで主人は男をからかうことに…。

梟

(ふくろお)

山伏 姉妹

山から帰ってきて以来、具合が悪い妹の花子を治して欲しいと山伏を尋ねる。山伏が一心に祈ると花子はいきなり奇声を発する。よく聞けば、花子が山に入ったときに梟の巣を発する。「これは、梟にとり憑かれたに違いない」ということで、梟の嫌う烏の印を結んで祈り出す。しかし一心不乱の祈りもむなしく花子は鳴き続け、そのうち姉にも移ってしまう始末…。

狂言は、中世の庶民の日常生活を明るく描いた、セリフが中心の喜劇です。

狂言の大きな特徴は「笑い」。中世の庶民の日常や説話などを題材に、人間の習性や本質をすどく切り取って、大らかな「笑い」や「おかしみ」にしています。

狂言の典型的なキャラクター「太郎冠者(たろうかじゃ)」を始め、様々な登場人物たちが織りなす物語。そこに描かれているのは現代にいたるまで変わらない、普遍的な人間の姿です。

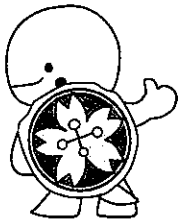
狂言は中世を通じて、能と交互に同じ舞台上で演じられてきました。歌舞を中心とした優美な象徴劇、能に対し、写実的な演技によって、滑稽に人間の姿を描く喜劇、狂言。

両者は互いに切っても切り離せない関係を保っています。現在、能と合わせてユネスコの「無形文化遺産」に登録され、歴史的な、また現代に生きる演劇としての価値が、国内外を問わず広く認められています。

豊中市健康づくり推進員を募集しています。

豊中市健康づくり推進員会とは？

豊中市が実施する市民健診について、市民の立場から実施・協力するボランティア団体として発足。30年以上にわたり、市民の「健康づくり」につながる活動をしています。「子どもから大人まで、わかりやすい健康づくり情報を発信したり、地域とつながる健康づくりを実践しよう」をモットーに、推進員もあなたも楽しめる活動を企画中です！



豊中市保健所  
とよなっかメ

- 各校区健康教室や校区サポート事業
- 全市事業セミナーの開催
- ふれあい緑地フェスティバルなどの市イベントへの出展

活動を通して社会や地域に貢献することで、やりがい(生きがい)を感じることができます。

わたしたちと一緒に活動してみませんか？

【問い合わせ】 豊中市健康づくり推進員会事務局  
(豊中市医療保健センター事務局)  
電話：06-6848-5663

ぜひ一緒に  
楽しみましょう！